

選抜制度	日 程	研究科	専 攻	科 目	
一般	I 期	国際学研究科	国際学専攻	外国語(日本語)	
受験番号		氏 名			採 点

I 次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

言語のスキルだけに注目すれば、AI 翻訳は情報伝達のツールとして高い水準にあります。でも言葉の機能はそうしたもののだけではありません。

言語を訳す時の言葉の選び方は、それぞれのアイデンティティーのよりどころでもあるからです。たとえば、ロシアによるウクライナ侵攻前まで、外務省はウクライナの首都をロシア語読みの「キエフ」と表記していました。でも侵攻後はウクライナ語読みの「キーウ」に変えました。これは外交上の話で政治的な文脈もあるものですが、どんな場面でも、どう言葉を選ぶかはデリケートなものです。言葉そのものが統治の装置になることもあります。

また簡単に訳しきれない固有の文化もあります。日本語の「懐かしい」「もったいない」「甘え」はすぐに訳せません。日本語の「検討します」は配慮を示しつつ、イエスとは言っていない。こうした違和感や行き違いを経験しながら、人は学び、対応力をつけていきます。そんなプロセスがなければ、多様な発想力をもったり、思い通りにいかないことに対応したりする力は弱まってしまうかもしれません。

人が AI 翻訳だけに頼り、他言語を学ぶことなく自分の言語世界だけで生きようになれば、対話を通じて理解を深めるプロセスがなくなる可能性があります。接点が狭まり、異なる言語圏の人への想像力が失われ、新たな分断をも生むかもしれません。自動で翻訳しやすい言葉を選ぶようになれば、思考の幅が狭まる恐れもあります。

別の問題もあります。そもそもすべての言語が AI 翻訳の対象になっているわけではありません。たとえば少数言語など、話者が少なく、ネットに情報が十分でない言語は締め出されています。AI の精度はデジタル上にどれだけの情報があるかに大きく左右されます。最も情報量の多い英語では精度が高まるとされ、言語による格差が生まれる可能性もあります。結果的に、英語や欧州言語の覇権が強まることも考えられます。

AI の進展の中で立ち戻って考えるべき点もあると思っています。少しでも速く訳すといった「効率」ばかりを評価していると、AI 翻訳の精度を前に、もはや人間の作業は必要なく、追いやられたように感じてしまいます。でも、機械に代替されるようなことを評価の対象にしてきたことが問題だったのではないのでしょうか。

ならば、評価の軸を変えていけばいい。少しでも速く、ではなく、どんな学びのプロセスを踏んでいるかに着目すればいいのです。この大きな変化を、人として学ぶべきコミュニケーション力や言語を学ぶ動機について、改めて考える機会にしていくべきだと感じています。

（「言語は人間のアイデンティティーだ」東京外国語大学副学長・教授 中山俊秀『朝日新聞』2023年08月04日朝刊）

【設問 1】 この文章を400字以内で要約しなさい。

【設問 2】 この文章に対するあなたの意見を400字以内で書きなさい。

選抜制度	日 程	研究科	専 攻	科 目	
一般	I 期	国際学研究科	国際学専攻	外国語(日本語)	
受験番号		氏 名			採 点

Ⅱ 次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

有権者の投票行動の研究は、政治学において統計学的な分析手法の利用が最も進んだ分野の一つであろう。世論調査データを分析した数多くの研究成果が発表され、有権者の非合理性を示す数々の証拠も見つかっている。

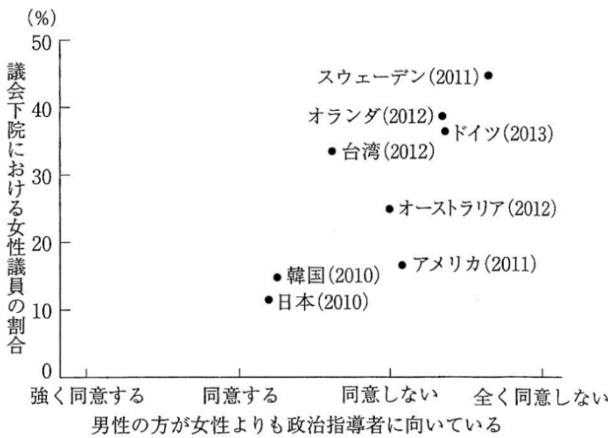
ジェンダーの視点から見た場合、有権者の非合理性は、自分が男性であれ女性であれ、政策とは関わりなく男性の候補者に優先的に投票する傾向としてあらわれる。女性は政治に参加するべきではないというジェンダー規範を内面化した有権者は、その候補者が男性であるというだけで、男性の候補者に投票する。女性候補者は、「女性らしい」振る舞いをすれば政治的な能力に欠けると言われ、政治家としてのリーダーシップを発揮しようとすれば「女性らしさに欠ける」と批判される。

この見方に基づいて考えれば、日本の女性議員が少ないのは、日本の有権者が他の国に比べて男性優位のジェンダー規範を強く内面化しているからかもしれない。図4-5は、世界価値観調査（第六波）のデータに基づいて、様々な国における有権者の価値観を比べた上で、同時期の議会下院における女性議員の割合と照らし合わせたものである。横軸には、「男性の方が女性よりも政治指導者に向いている」という考え方に同意するかどうかという質問項目に対する回答の平均値を示し、縦軸には女性議員の割合を示した。この図を見ると、スウェーデンでは、質問項目に全く同意しない有権者が多くを占めるのに対して、日本では同意する有権者と同意しない有権者の割合が大きくは違わない。つまり、日本では、男性優位主義的なジェンダー規範が強く、それによって女性候補者が不利になっているとも考えられる。

ただし、ここで示した世論調査結果の扱いには注意する必要があるだろう。同じ質問項目でも、国ごとの言語や文化の違いによって回答のパターンも異なる。この調査の場合、質問に対して「分からない」と答える回答者の数が、日本は突出して高い。近年では、実験的な手法を用いて有権者のジェンダー・バイアスの強さを測定する研究も盛んに行われているが、質問項目の設定の仕方や調査の実施方法によって、検出されるバイアスの強さは大きく異なる。

いずれにせよ、有権者のジェンダー・バイアスに言及するだけでは、日本の女性議員の少なさは説明できない。二〇〇五年に東北大学の研究グループが実施した調査では、日本の平均的な有権者が妥当だと考える女性議員の割合は約三三%だという結果が出た。実際の女性議員の割合は、この水準を大きく下回っている。つまり、日本では、有権者が望んでいる以上に、女性議員が誕生しにくい構造が存在しているといえよう。

（前田健太郎『女性のいない民主主義』）



出典：WVS Wave 6 および V-Dem Version 9 より筆者作成。
図 4-5 先進国における市民の価値観と女性議員の割合

【設問 1】 この文章を400字以内で要約しなさい。

【設問 2】 この文章に対するあなたの意見を400字以内で書きなさい。

No. 3

選抜制度	日 程	研究科	専 攻	科 目	
一般	I 期	国際学研究科	国際学専攻	外国語(日本語)	
受験番号		氏 名			採 点

[illegible]
$$(25 \times 16)$$
[illegible]
$$(25 \times 16)$$

選抜制度	日 程	研究科	専 攻	科 目	
一般	I 期	国際学研究科	国際学専攻	外国語(日本語)	
受験番号		氏 名			採 点

[illegible]

(25 × 16) ◀ 400字

[illegible]

(25 × 16) ◀ 400字